

大堂背後の墓地に至れば

興津豪魚丸墓 墓石には 小田氏

嘉永七年甲寅二月二十一日

興津豪魚丸は通稱小田昌右衛門で浪華丸孤狂歌師であつて、初代蝙蝠軒魚丸の後を繼ぎ、蝙蝠軒殿斗丸と稱し蝙蝠連を統率し、後に興津豪魚丸と改めた人で住所は南江戸堀に住んで居て書林であつた、弘化二年の摺物によると其連名に如星堂幾久成、眞垣亭菊友、遊蝶舎夢輔、眞金堂吉備丸等十四五人もある。源光寺の南には、有名な鬼子母神の慶住院の墓が、北大阪線の向ふに見ゆるのである。

濱火、濱村の墓所より、雨夜に出る火魂也、所傳云、昔此處に貪欲の土民在て、常に此墓所に隱忍で、墻卒都婆を破り、或は火葬の燒草を盜採て、己が甕に燒て、神を穢し、終に罰を請て、其罪を啗死するの猛火也。中頃當所源光寺の僧惠觀、融通大念佛一千日の執行、爲之罪を謝するの後、火炎勢薄く出る事邂逅なり。「攝陽群談」

現今大阪市營火葬場は、阿部野、長柄、小林町、春日出、寝屋川、住吉、平野、佃、他數ヶ所で、此等一年の火葬件數は、約四萬四五千人もあるとのことだ。「昭和九、四、十一。大阪朝日、新聞街一丁目記載」

「大阪訪碑錄、近畿墓跡考、大阪金石文等に掲載するもの、碑文は茲に重掲を避く。」

葭原と長柄

川崎紫明

交通整理で、兵士と警官が一波瀾を卷起したことがある。天六の新京阪前から、北向ひの大阪北市民館とその後方へかけて、明治中年頃迄も、墓原があつたとは誰が想ふものぞ。

此墓原は天平の昔行基菩薩の開基した葭原の墓所で、所謂七墓の一つ、その東北方には有名な國分寺がある。

葭原の墓所は行基菩薩が開基と云ふ傳説だが、擴張されて著名になつたのは元和年中天滿の町家に在つた墓を此所へ移轉してからであらうと思ふ。

「大阪濫觴書一件」元和五年の頃の通書いてある。

大坂市中所々に有之候阿波座村。三ツ寺村。上難波村。敷津村。渡邊村。津村。の墓所は以來下難波村墓所へ千日寺聖ともに壹ヶ所に寄之右五ヶ所の墓は、取拂候様被仰付千日の聖六坊と相成候事但し上町の分は小橋村。天滿の町家は葭原村。濱村。梅田村墓所に被仰付

往古はその名の葭原から察して、葭や葦の簇生した水郷であつたらう。埋田を梅田と改めたやうに、葭原を吉原とも記される。されば市民館の背後の空地（市民館の建つ迄は勿論こゝ數年前迄も尙墓石が残存したのを覺える）には板圍ひはすれどもその少し

南には「沖向地藏尊」の小堂がある。遙に茅沓の浦曲を見渡して立つた大きな石佛（丈凡六尺）である。又「切られの地藏さん」とも呼ばれて、淋しい葭原の路を信心に餘念のない善男が賊に出合ふて、背を斜に切られ昏倒したが、何の傷もなく身代りに此地蔵さんの背に刀傷が附いてあつた。今もその傷のまゝに苔が生えて居ると、我は見ないがそんな話を堂守の口から聞く。

此地蔵尊の御歌は次の如く三番ある。

第一番 われたのむこゝろをこめてねかひなは

第二番 のちのよもこのよもともによしわらの

第三番 なむたいしたいひのふかきをきむきの

ひとのためをはまもるみほとけ
ぢさうほさつにたのむちかひを

扱此地にあつた墓石の多くは、當然長柄の墓地へ漸次移つたものであらう。最も阿部野墓地へも移つたものもある。

長柄の墓地は明治七年に新設されたもので其の當時次の如き御達が出て居る。

明治七年八月二十日 大阪府第二百五十五號達

今般長柄村に於て埋葬地取設候條來る九月一日より住居之場所を不論一般埋葬免候に就ては別紙圖面朱引以北之各町並右役所へ接近の村落に從來設置候墳墓地の儀へ同日より埋葬差止候工規則並心得書等總て天王寺埋葬所之通候條此旨可相心得事

右之趣市中並附近の村落へ無視相違する者也

維新文政十一戊子六月吉祥日

此墓石は半ば埋れども左の如し

- 世 播磨屋新 兵衛
- 話 柴屋藤 兵衛
- 人 河内屋三 五郎
- 総 屋勘 兵衛



長柄墓石の地に葭原墓地轉移合葬之碑
(影 堀 木 船)

(北側面)

- 文政第十一戊子歲
- 七月吉祥日建之
- 世 萬屋屋
- 話 山田屋
- 人 内河屋

葭原と長柄

又開設當時に於ける墓地の反別は二町八畝六歩其他の反別は五反六畝十一歩創立者は大阪長柄の天満屋某外數名であつた。尙火葬場は明治九年六月二十五日より開場したのである。長柄の墓地へと来て見れば、廣々とした域内に累々として立つ墓又墓、南の端から北の端へと東へ西へ縫ひもて歩く。南に一層東寄に一層の無縁墓がある。先づ此東寄中央の無縁墓に近く二基迄も大きな六字名號の石碑がある。此一つには左のやうに臺石に刻られ、又碑文もある。

(西面表)

南無阿彌陀佛
天満東郷
勤人中
榮種絞油家

(石臺)

榮種絞油家

(南側面碑文)

六字名號碑銘並序——攝之國分精舎比丘覺宥撰
粵有浪華希世之徒其業日日勤采蘇絞油隊同輩相共積備力日貫之中一兩錢漸每至數萬錢作無邊之佛事此葭原墳塋先已繫洪鐘而草至斂棺撞之以爲永式今亦建六字巨碑擬無緣幽魂之得脫焉嗚呼貴哉嗚呼奇哉其人非豪富而爲人屢日給數錢送且夕人也雖然於其志操憫群迷濟幽魂者豈懶王候大人豪商賈伯哉且與爭利貪貨之俗土同日不可諱所謂大悲之一智菩薩之行願也予不堪感嘆善歎事而爲記焉讀曰。

- 貧女孤燈 其德尙圓 履工鴻業 元目一錢
- 千鈞梵鐘 音驚長眠 六字巨礪 高與雲連
- 同心戮力 共勉福田 不朽不壞 鑄金石堅
- 尤仁尤盛 益養岸胎 兩側佛事 聖賢永傳

尙此碑から西數間に南面して、左の三つが眞についた。

○行基菩薩開基地

(裏面)

和合講

○行基菩薩石像

納

- 施主 大平佐 帶傳平 木權長 泉嘉三 柏長三 木權長 油嘉三

- 弘化……………
- 二月……………
- 一千一百年……………
- 御忌……………

- 丹譽上人……………
- 釋祐德……………
- 釋道仙淨……………
- 大地震三十三年……………
- 日本廻國……………
- 大火事十三回忌……………
- 釋淨……………

行基菩薩の入寂は天平二十一年二月で、その千百年忌は嘉永元年即ち弘化五年である。

大火事十三回忌は天保八年の大鹽の兵亂のことであらう。即ち

四五

此等の供養塔である。

此等の石碑及び石佛の附近に無縁墓がある。

當基葬精靈 (正面南面)

(裏面) 安永二癸巳年三月

葭原元祖講

即ち此等盡くは葭原の墓地に在つたことが明白である。

十方法界有無兩縁之靈魂頓證菩提

明治二十八年七月建立

扱此無縁墓を見渡した所で眼についたものを列挙すれば、

(南面) 三代目 鶴澤寛次墓

釋 正專

嵐光義勇信士

文化十三年丙子十二月建之

(西面) 若松庄五郎墓

若之森倉吉墓

權藤安七種治墓

大阪町奉行組與力

(側面)

三宅三郎右衛門源正廣

紙屋 吉右衛門 墓

紀伊國屋忠兵衛 墓

寶曆十一年に御用金三千兩を納めて居る大阪の富者に番屋吉右衛門と云ふ人がある屋號名共同しだから其縁者かも知れん

六部宗兵衛墓

櫻竹門大夫墓

武大夫事

方齋廣瀨先生墓

(北面) 渡邊晶英墓

天明元年辛丑歲七月廿八日 行年八十二歲

(東面) 釋 專 山

不退位 貞 山

三宅矢之助種益建之

こんなことを書いて居れば限りがない。

廣い墓域の西南隅に

西川嘉七外參千四百參拾六名合葬之碑 (東面)

大正十一年三月二十五日建立 (裏面)

此は現在の關西大學の校舎の位置にあつた墓石を整理して合葬

したものである。

南の入口を這入つてすぐ東寄りに、是亦葭原より移したものに

市場仲買先祖代々の墓 (西表面中央)

大きな衝立型の碑の前後兩面に仲買人名が多數に刻つてある。

(南側面)

抑當郷市場仲買中間從往古所爲運

綿也然又中有干家之盛衰而絶先世

之吊祀亦不少故歎之有年因誌其家

有無之俗名碑之兩面亦將爲菩提書

寫妙經一石一字此納碑之下是以而

爲古今精靈追禮供養敬建之焉

(北面) 曾文政十三年歲次庚寅七月

高谷幹之墓

明治廿八年六月廿八日歿

此等は高谷恒太郎氏の祖である。

次に此廣い墓域内で見當つたのを左に列挙しやう。

藤森盛眞君墓

君諱盛眞通稱和一郎嘉永三年十二月十日生 干大和國十津川平

谷村幼受業郷校文武館頗有英發之譽 應應丁卯冬高野山之義舉

也君亦與焉後出身陸軍官至曹長 明治八年有故辭職還郷偶病就

醫於大阪而治無驗以翌九年十二月廿九日歿 干客舍因葬於名柄

之墓居爲人温良常篤友誼故君之死也 朋友故舊愛惜不止遂相謀

建此碑

明治十八年十月

玉置良藏之墓

此は浪華 藤澤南岳の撰并に書でその銘文に、

寧爲壁碎固勝瓦全何用問其誰遺愛在人三弟志不與卬木朽

上岡吟窓之墓

此は岡山縣邑久郡幸島村の人で、明治二十三年に大阪で石版術

を開いた人で店の名は巢鳳館といつた。

從六位三嶋爲嗣之墓

本郷長崎縣土族

天保八丁酉年三月十八日生於肥前國彼杵郡長崎

明治十丁丑年一月十八日被任大藏省企書記官、明治十三庚

辰年十一月六日卒於攝津國大坂造幣局官邸、享齡四十二年

九箇月

次に東南隅寄の地に南面した左の二基が立ち、その東西に各三十一基、背後四列東西に各十二基宛、總計百十基の小さな墓がある。

府立大阪醫學校

被救人解寐之碑

明治十九年五月建之

大阪帝國

大學醫學部 解剖寐之碑

昭和八年十一月二日

財團法人惠濟團建之

大塚惟明、玉手弘通、磯野小右衛門などの名士の墳は別として

左のやうなのがあつた。

高谷龍洲之墓

明治廿八年四月七日歿

高谷美壽之墓

明治四十三年四月廿九日歿

龍洲妻

葭原と長柄

(南面)

南洲近藤先生墓

碑文は和泉松堂居士山田迪撰文で、大正十一年一月四日七十三歳で歿して居る。

樂音都民日洞居士

明治十四年二月十七日

東京淺草區新吉原町三丁目 都民中

こんな雑然たる中に、葎原から移したものでらしいのに左の三基があつた。

森玄昌之墓

文化二年六月

天保八丁酉五月廿五日

森敷女之墓

森縫室之墓

文化十年八月致

森玄節之墓

享和元辛酉年

次にふと眼についたのは親分らしい名で

難波鐵之墓

所が碑文を讀み見ると左の通り嬰兒だつた。

鐵十世二郎三郎五男母鎮殿氏以明治二十四年九月二日生二十

五年十二月十四日天

此より前に一つ

世西福

話森熊

二十一年の一周忌に立て、居る、何の事件で殉難したのか知りた。

山路嘉平次

精松佐太夫

(墓石) 有志 有田嘉之助

今川宗次郎

愛甲彦次郎

山路敬次

明治二十年四月二日

獻燈 鮫島宗祥

大重喜三郎

肝付宗次

山下惣八

次に攝北能勢の郷土能勢頼富の墓碑を見る。

守徳院殿頼富日向大居士 (南正面)

家君姓源多田滿仲之裔父頼功母京極

氏文政五壬午年正月十四日生天保十

三年寅續家元治元依幕府命警衛京師

同年七年以功叙從五位被任日向守慶

應三年更奉 朝命護京師翌年正月奉

窺 天機同日獻 御太刀御馬代五月

被召拜朝臣賜本領六月警衛期滿賜

御下書而歸邑 明治二年供奉 御東

幸同年奉還封土爲大阪府士族同九年

六月付家事男頼萬同年九月廿一日卒

享年五十有五

謹哀子頼萬謹誌

最後に、前天滿宮社司滋岡從長大人の墓碑を左に掲げやう。

滋岡從長之墓 (中央西北寄南面)

葎原と長柄

明治十年五月之建

朝ノ森 人今 礎 中 宇

以上藤森盛眞以下は墓域の東北部にあるもの、次にその西北部へ移ろう。

尙西北部に至りては

竹豊太夫 妻 之奥城

西井幸吉大人 明治四十一年八月十日

(裏面) 西井ツイ刀自 明治三十二年十二月五日

西 夷谷座 宮田民彌

京 手代

明治廿年八月廿二日

単に「孝女閨菊墓」としたのなどは知らねば詮もなし。

勇猛院善譽吉勇居士

頗る眼を惹く非常時らしい法名だったので、碑文を見ると、

志賀吉重和歌山縣士族幾藏長男明治四年十二月應召隸大坂鎮

臺五年正月拜軍曹七年二月從事於佐賀之役九年三月轉會計書

記十四年三月九日病歿享年三十五

次に

(南面)

故巡查猿渡信光之墓

(東側面)

鹿兒島縣大隅國始良郡鍋倉村士族行年三十九歳君姓藤原明

治十七年四月七日大阪府巡查拜命明治十九年五月四日歿

恩賜金の字句が光り、殊に同縣人等の有志が、墓石に名を通ね

(背面碑文)

先考幼名松原長稱從長長養之嫡子

也夙治國典善和歌兼好書道嗜丹青

資性温厚正直敬神尊皇之志特篤矣

初任官幣大社生國魂神社主典轉天

滿宮社掌明治三十五年進任社司蓋

滋岡家者菅氏之裔而所襲累代父祖

之職也茲大正四年十一月二十二日

得病歿時六十二歳葬于長柄地

大正九年十一月嗣子長彦謹誌

天滿宮祠官寺拜、大道、滋岡の各家々累代の墓は、南濱の墓地にあるのだが、獨り此墓のみが新しく此地に定めらる。(終)

千日前住家に面して建つてゐた六と呼ぶ女の子の墓 (圖は實録所載)

